

## 来たれ若き産婦人科医

女性・生殖医学講座（産婦人科）  
仲宗根 忠 栄（24期生）

皆様こんにちは、24期生の仲宗根忠栄と申します。私は琉球大学を2010年に卒業し、琉球大学医学部附属病院で初期研修を2年間行い、この4月から琉球大学の産婦人科に入局し日々勉強させて頂いています。今回医局紹介を担当させて頂くことになりましたので、簡単ではございますが現在所属しております産婦人科について、紹介させて頂きます。当教室は昭和58年4月に開講し、平成15年4月に学部改組に伴い「医学部器官病態医学講座女性、生殖医学分野」に改められ現在に至ります。初代中山道男教授、第二代金澤浩二教授、そして現在は第三代の青木陽一教授のご指導のもと、日々臨床、研究、教育に邁進しています。

産婦人科は婦人科腫瘍、産科・周産期、不妊・内分泌と大きく3つの部門に分かれて診療を行っています。婦人科腫瘍に関しましては子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌と婦人科腫瘍の3大疾患の症例数はいずれも全国大学病院の上位（子宮頸癌はトップ）にランクされており、わが国でも屈指の治療例数を誇っています。様々な臨床試験へも参加しており、EBMに則った最先端医療がなされています。放射線治療部門との密な連携も誇れる点だと思います。産科周産期部門ではハイリスク妊娠・分娩の集中的管理と治療、不育症患者の系統的診断と治療、生殖内分泌部門では通常の不妊治療から顕微受精など高度な技術を用いた難治性不妊の治療まで手がけています。

現在、産婦人科医の減少や不足が社会的にも

大きく叫ばれています。実際に働き始めて、とても多忙な現場だと実感します。しかし同時にとても充実しており、やりがいを感じています。私は医学部に入学当初は将来の診療科として産婦人科は選択肢にありませんでした。ですが実際にまわってみるといずれの分野も面白く、また医局の先生方も雰囲気も良く、わからないことも丁寧に教えて下さり、何より教授の青木先生が非常に優秀で尊敬出来る方であり、この教室に入ることに決めました。毎年行われているビーチパーティーなどでは先生方それぞれが家族連れでいらっっしゃられていて、とても和気あいあいとしています。私ごとですが最近結婚披露宴を挙げた際にも、先生方お忙しい中出席し余興でも大活躍して頂き本当に感謝しています。産婦人科はその他の診療科と比較して特殊な側面もあり将来の診療科として敬遠される方もいると思いますが、実際直接診療していくと学問として非常に興味深く、尽きない魅力を持ち、それを具現する産婦人科医療もまたきわめてダイナミックでやりがいのある分野だと思います。女性の先生方はもちろんですが、男性の先生方もぜひ琉大の産婦人科に入局し、沖縄の産婦人科医療を盛り上げていきましょう。

